

## 「群衆への教え(1)」

ルカ 12 : 54~59

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①弟子たちへの教え 5つのテーマ
- ②群衆への教え 4つのテーマ
- ③イエスの教えの目的

\*群衆は、イエスを目撃し、その教えに耳を傾けてきた。

\*しかし、イエスがメシアであることをいまだに信じていなかった。

\*そこでイエスは、群衆に信仰の決断を迫った。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 108~110 は、ひとかたまりと考えるべきである。

- ① § 108 ルカ 12 : 1~59
- ② § 109 ルカ 13 : 1~9
- ③ § 110 ルカ 13 : 10~21

#### (3) 群衆への教え(4つ)

- ①ルカ 12 : 54~59 「今のこの時代」について
- ②ルカ 13 : 1~9 悔い改めについて
- ③ルカ 13 : 10~17 人間が抱える必要について
- ④ルカ 13 : 18~21 御国のプログラムについて  
(今回は①を取り上げる)

### 2. アウトライン

- (1) 自然界に見られるしるし (54~55 節)
- (2) この時代のしるし (56~57 節)
- (3) 裁判のたとえ話 (58~59 節)

### 3. 結論 :

- (1) イエスの教えの要約
- (2) 私たちにとっての「今のこの時代」

群衆への教えを通して、イエスから警告と励ましを受ける。

## I. 自然界に見られるしるし（54～55節）

### 1. 54節

**Luk 12:54** 群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が起こるのを見るとすぐに、『わか雨が来るぞ』と言い、事実そのとおりになります。

- (1) 西に雲が起こる。
  - ①地中海から雨雲が立ち、東に流れてくる。
  - ②西の雨雲は、雨が降るしるしである。
  
- (2) 群衆は、知識とそれを受け入れる意志とを持っていた。

### 2. 55節

**Luk 12:55** また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ』と言い、事実そのとおりになります。

- (1) 南風が吹きだす。
  - ①これは、砂漠から吹いてくる熱風である。
  - ②春から夏への移行期に、この風が吹く。
  - ③花や草は、一日で枯れる。

(例話) ガリラヤ湖で、南風の体験をしたことがある。
  
- (2) 群衆は、知識とそれを受け入れる意志とを持っていた。

## II. この時代のしるし（56～57節）

### 1. 56節

**Luk 12:56** 偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。

- (1) 自然界のしるしは見分けても、「今のこの時代」は見分けることができない。
  - ①群衆は、靈的しるしについては盲目である。
  
- (2) 「時代のしるし」という言葉
  - ①マタイは、「時代のしるし」という言葉を使っている（マタ16:3）。

\*英語では、「the signs of the times」である。
  - ②福音書では、「時代のしるし」とは、メシアの初臨のことである。
  - ③メシアの初臨は、「今の時代」を見分けるための「時代のしるし」である。

2. 57節

**Luk 12:57 また、なぜ自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか。**

(1) 訳文の比較

「また、なぜ自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか」(新改訳)

「あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか」(新共同訳)

「また、あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しないのか」(口語訳)

「また何故みづから正しき事を定めぬか」(文語訳)

(2) メシアの初臨がすでに成就していることを認めないのは、彼らの責任である。

①パリサイ的ユダヤ教は、聖書を大幅に再解釈していた。

②そのため、預言者たちが語った預言の本来の意味が不明瞭になっていた。

③その例が、ダニエル書9章の預言である。

\*70週の預言と呼ばれる箇所である。

\*これは、メシア到来のタイムスケジュールを教えている。

④それゆえ、自ら願うなら、誰でも真理を学ぶことはできる。

⑤彼らは、メシアの到来と、御国の提供を目撃している世代である。

(3) 群衆を糾弾することばの中には、イエスの愛が表現されている。

①イエスは、その世代の者たちに下る裁きを逃れる道があることを教えている。

②その世代の者たちに下る裁きとは、紀元70年に下る物理的な裁きである。

③裁きを逃れる道とは、神との和解である。

④神との和解の必要性について教えているのが、次のたとえ話である。

### Ⅲ. 裁判のたとえ話 (58～59節)

1. 58～59節

**Luk 12:58 あなたを告訴する者といっしょに役人の前に行くときは、途中でも、熱心に彼と和解するよう努めなさい。そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行きます。裁判官は執行人に引き渡し、執行人は牢に投げ込んでしまいます。**

**Luk 12:59 あなたに言います。最後の1レプタを支払うまでは、そこから決して出られないのです。」**

(1) これは借金のゆえの投獄に関するたとえ話である。

①返済できなければ、投獄される。

②次に、奴隷にされる。

③最後の1レプタを支払うまでは、自由人とはなれない。

\*やもめの献金はレプタ2枚(マタ12:42)。

\*最小単位の銅貨

- ④唯一の望みは、家族や知人が弁済してくれることである。
- ⑤あるいは、貸主と和解することである。

(2) 4種類の人たちが登場する(すべて法律用語)。

- ①告訴する者
- ②役人
- ③裁判官
- ④執行人

(3) たとえ話の適用

- ①4種類の人たちは、すべて神を指していると考えられる。
- ②地上の係争においては、告訴する者との和解が重要である。
- ③ましてや、告訴する者が神であるなら、和解はさらに重要な課題となる。

## 結論

### 1. イエスの教えの要約

- (1) 自分が住んでいる時代を見分けるべきである。
- (2) 迫りくる裁きを逃れる道がある。
- (3) その道とは、自ら進んで預言を学び、イエスをメシアとして信じること。
- (4) ユダヤ人信者は、紀元70年の神殿崩壊において、誰ひとり死ななかつた。
- (5) イエスの教えは、その通りに成就した。

「しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都に入ってはけません」(ルカ21:20、21)

- ①熱心党がエルサレムを占拠し、ローマに反乱を企てた。
- ②ローマはエルサレムに進攻した。
- ③ユダヤ人信者たちは、これを終末論的出来事として捉えた。
- ④紀元66年、一時的にローマ軍の包囲が解かれた。
- ⑤ユダヤ人信者たちは、ヨルダン川東岸のペラに逃亡し、滅亡を免れた。
- ⑥紀元68年、ローマ軍は再びエルサレムの包囲を開始した。
- ⑦紀元70年、エルサレムは神殿とともに破壊された。

- ⑧この時、約100万人のユダヤ人たちが殺害された。
- ⑨これを境に、一般のユダヤ人とユダヤ人信者の間に溝ができた。

## 2. 私たちにとっての「今のこの時代」

### (1) 明確な聖書の意味が分からなくなっている時代

#### (2) 自由主義神学

- ①最初から聖書を神のことばとは認めていない。
- ②一般書店に並んでいるキリスト教関係の本は、ほぼこの系統に属するもの。

#### ③奇跡の否定

\* 出エジプト記の奇跡の否定

\* 処女降誕の否定

\* イエスの神性の否定

#### ④きょうの箇所は、自由主義神学では読み解けない。

\* イエスの到来がなぜ「時代のしるし」と言えるのか。

\* イエスを信じるのが、なぜ逃れの道なのか。

\* イエスはなぜ、エルサレム崩壊を予告できたのか。

### (3) 比喩的解釈に基づく神学

#### ①ユダヤ的解釈から離れた結果、比喩的解釈が広まった。

#### ②教会は新しいイスラエルであると教える。

#### ③これを置換神学という。

\* 教会がイスラエルに取って代わった。

\* 神がイスラエルために立てておられる計画が分からなくなった。

### (4) 字義通りの解釈の回復が重要である。

#### ①神は、「時代のしるし」を用意しておられる。

#### ②メシアニックジューの増加

### (例話) LCJE (ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会) のジム・メルニック氏

\* 9月20日、お茶の水の集会で通訳をした。

\* 迫害下のロシアのユダヤ人たち(無神論、ユダヤ性の保持)

\* ロシアからの移住

\* 最も福音に心が開かれている。

\* 救われたロシア系のユダヤ人たちの影響は大である。

### (5) 迫りくる裁きと救いの道

#### ①ノアの時代

#### ②イエスの時代

#### ③そして、「今のこの時代」